

2025年度（令和7年度）学校評価自己評価表

福山市立精華中学校区	校番 15	福山市立精華中学校
最終更新日		2025 年（令和 7 年） 4 月 15 日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	【主体的に学ぶ力】【思考力・判断力・表現力】【自己形成力】
・プロセス評価の評点が向上するように、PDCA サイクルの視点をもってマネジメントしてほしい。	・興味をもったことを探究するなど、主体的に行動する姿が増えている。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	・確かな学力を身につけ、自ら進路を切り拓く子ども
・学校と地域との連携協力をさらに深め広げていくことが大切である。	・自分の考えを持ち、他者に伝えるなど、自己表現力が育ってきている。	中学校区として統一した取組等	・自己肯定感が高く、地域に愛着と誇りをもち、社会に貢献できる子ども
・少人数の良さを生かし、一人一人の子どもたちに成功体験を持てる機会を通して自己肯定感を育ててほしい。	・教科で身につけたい力が十分身につけていない児童生徒がいる。		・学力分析と授業研究を通した「主体的な学び」の授業づくりに取組み、学力の向上を図る。 (授業研究部会)
	・人間関係の固定化やレジリエンスにややかけるところもある。		・「自分で選び・決める」活動に取組み、思考力・判断力・表現力を育成する。(プロジェクト部会)
			・児童生徒の自己肯定感と自己有用感を向上させ、自己形成力を育成する。(自治活動部会)

III 自 校

ミッション		資質・能力		主体的に学ぶ力	思考力・判断力・表現力	自己形成力
地域に愛着と誇りを持ち、生徒一人一人が主体的に学び、精華中で学んでよかったと誇れる学校		めざす子ども像	小1 ～ 小4	日常生活をよくするために、生活体験などの情報を生かし、様々な課題に意欲的に取り組むことができる。	自分の考えを持ち、相手意識を持って、話したり書いたりして表現している。	思いやりの心を持ち、目標を達成するために、協力し合い、粘り強く努力している。
学校教育目標			小5 ～ 中1	日常生活や地域社会をよりよくするために、学ぶことに対し自分で価値を見出し、様々な課題に意欲的に取り組むことができる。	日常生活や地域社会をよりよくするために、既習事項を活用して、自分の考えや意見を話す・書く等で表現している。	日常生活や地域社会をよりよくするため、相手のことを思いやりながら目標を決めて、最後までやり遂げようとする。
夢と志を持ち、社会に貢献できる生徒の育成			中2 ～ 中3	社会をよりよくするために、学ぶことに対し自分で価値を見出し、様々な課題に自発的・能動的に取り組むことができる。	社会をよりよくするための課題を見つけ、既習事項を活用して、自分の考えや意見を工夫しながら表現している。	誰に対しても思いやりの心を持ち、より高い目標を達成するために、相手の立場や考えを尊重しながら、粘り強く取り組み、やり抜いている。
現 状		研究	テーマ	自ら進んで考え、協働的に学びを深めながら、確かな学力を育成する授業の創造		
＜児童生徒＞ ・素直であり、校内や地域でのボランティア活動に積極的に参加している。 ・体育大会や文化祭等での行事では、生徒が主体的に活動できる。 ・人間関係が固定化し、人間関係の広がりや、新たな関係の構築が難しい。 ＜授業＞ ・まず、自分の考えを持つ取組により、表現することへの抵抗感は和らいできている。 ・話し合い活動で意見を交流することはできているが、内容が浅く、「深める」「広がる」ところまでには至っていない。 ・授業と家庭学習の関連を図る取組を充実させていく。			主題・内容等	学力を定着させるために ・生徒が「わかる」「できる」を実感できるための教材研究と授業実践 ・単元の中で、生徒自らが課題発見・解決できる過程のある授業を展開（考えてみたい、考えざるを得ない問いの工夫） ・個人思考の時間を確保（個人思考→話し合い活動→表現活動→個の振り返り）		
			めざす授業の姿	○教えるところはしっかり教える授業 ○多様な表現の場がある授業 ○子どもが自ら「学び方の選択」がある授業 ○意欲の喚起・問いのある授業 ○学びの価値が感じられる授業		

福山市立精華中学校

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況	□指標 評価	□達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	□指標 評価	□達成 評価	□総合 評価	改善方策
4	主体的な学び の授業づくり を進め、学ぶ 意欲と学力の 向上を図る。	★	継 続	めざす授業の姿 にせまる授業実 践を行い、基礎学 力の定着を図る。	教科の面白さや 魅力を引き出す 教材研究を深め、 授業公開・参観で 学びあう。	「なぜ」「もっと 考えてみたい」と 思って学習して いる生徒の割合 が昨年度以上 【生徒ア】									
					校内研修でテスト の学力分析を行 い、共通の取組 を決めて全教科 で実践する。	正答率を市平均 以上にする。 【標準学力調査】 毎日家庭学習に 取り組む生徒 80% 以上【生徒ア】									
4	生徒の自己肯定 感と自己有用感 を向上させ、自 己形成力を育成 する。		継 続	生活習慣を確立 し、自分から進 んで行動する生 徒を育成する。	生徒主体の行事 やボランティア 活動等を行い、善 行を通信や掲示、 表彰等で取り上 げ紹介していく。	他者から認めら れたり、感謝され たりした経験が あると回答する 生徒 80%以上 【生徒ア】									
1	地域とともに ある学校づく りを推進する。	★	新 規	学校外のリソー スを活用した課 題発見解決学習 (ふるさと学習) を積み上げてい く。	外部講師を招聘 したり、地域と のかかわりへの主 体的な参加を促 したりしていく。	地域や社会に貢 献していきたい と回答する生徒 80%以上 【生徒ア】									
			新 規	保護者や地域か ら信頼され、期 待に応える学校 づくりを行う。	学校・学年通信や HP等で保護者や 地域に情報発信 する。 出前授業を保護 者にも公開する。	学校の様子を 知らせるように 努めていると回 答する保護者 90% 以上 【保護者ア】									
4	教職員の資 質・能力の向 上を図る。	★	継 続	教職員が笑顔で 元気に働ける環 境を整え、挑戦 意欲を高める。	授業や業務にお ける新たな ICT の活用の幅を広 げ、効率化を図 る。	子どもが自ら学 ぶ授業づくりに あてる時間があ る教員 80%以上 (66.7%) 【教員ア】									

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。